



とやま障害者フレンドリー企業

事業所名

こまつな菊ちゃんハウス

事業概要

農業（ビニールハウスにおける小松菜の周年栽培、梨の栽培）

障害者の雇用状況

従業員数：17人

雇用障害者数 身体2人（うち重度1人） ・ 知的2人（うち重度1） ・ 精神2人

障害者が従事する業務

身体障害者（聴覚障害者）：小松菜の袋詰め 1人
梨の栽培管理及び小松菜の播種前準備作業等 1人

知的障害者：小松菜の袋詰め、収穫作業補佐、防除作業等 1人
小松菜の袋詰め、収穫作業補佐 1人

精神障害者：小松菜の播種前準備作業及び播種（機械作業）1人
小松菜の袋詰め、収穫作業補佐、肥料散布等 1人

障害者雇用のきっかけや目的（雇用に対する考え方）

- ◆障害者就業・生活支援センターからのチャレンジトレーニング事業による職場実習により受入れた人が仕事に十分間に合う人だったため採用したのがきっかけで、それ以来職場実習を通じて、雇用するようになった。
- ◆障害者だからといって特別扱いせず、1人1人を尊重し、その人の個性に応じて、できる仕事を責任を持って行ってもらうこととし、ナチュラルサポートを心がけている。

障害者雇用定着のために工夫されている取組みなど

- ・本人の体調や体力等を考慮しながら、休日や勤務時間を設定する。（週30時間勤務が基本）
- ・必ず職場実習を通じて採用し、本人の適性を見極めながら業務に就いてもらう。
- ・最初は、やり方の手本を実際に見せて、仕事を覚えてもらう。慣れるのに時間はかかるが、一つの業務に慣れてくれば、別の業務も経験してもらい、できる仕事内容を増やしていく。ただし、決して無理はさせず、一定の仕事任せようとしている。
- ・1人で任せられる作業を増やしていくと、外部の栽培技術の講習会に率先して参加するなど、仕事への取組みが意欲的になり、達成感・責任感を持って働くようになる。
- ・採用時に家族の方とも面談し、職場と本人について、理解し合う。問題があれば、家族と連絡を取り合う。
- ・小松菜の収穫や袋詰めを一緒に行う、高齢女性従業員等が常時障害者を温かく見守っており、トラブルがあれば指導役へ直ちに連絡が入る体制となっている。
- ・定期的に親睦旅行や親睦会を開催し、職場全体の交流を深めるようにしている。
- ・指導役がジョブコーチの資格を取得し障害者雇用の理解を深めており、今後も障害者の職場定着や安心して働ける職場環境づくりに役立てていきたい。

会社(社長)の声など

- ・持っている障害により留意することはあるが、普段の仕事の中で障害の有無を意識することはない。農業分野で体を動かす仕事であることも良い作用となっていると考えている。
- ・障害者は仕事に慣れるまでに時間がかかるが、慣れれば自分自身で努力し、十分戦力になってくれます。
- ・季節によって仕事量に波があるため、年間を通じた仕事を生み出すことが課題。
- ・今後ともマッチする人材が見つければ職場実習の受入れ、採用を進めていきたいと考えている。
- ・ここで働く人全員が自分の仕事にやりがいを感じながら自立して働き、安心して働ける職場づくりを今後も目指していきたい。



ハウス内の小松菜の圃場の整地作業



収穫した小松菜の袋詰め作業